切り絵　『兎』　比企善彦 作

うぶすな

茨木神社社報
発行所
茨木神社社務所
茨木市元町4−3
072(622)2346
https://www.ibarakijinja.or.jp/

「令和の大造営」を完遂して

今般、御本殿創建四百年を記念して進めてまいりました御本殿の修復並びに幣殿・拝殿の造替事業も八月末に社殿が完成し、翌九月二十日に大神様をお遷し申し上げる遷座祭、そして十月十日に奉祝祭をご斎行申し上げました。これも偏に、令和の「今（いま）」を生きる多くの皆様の赤誠溢れるご理解とご協力あればこそ完遂できたものと誠に有難く衷心より篤く感謝申し上げます。

元和八年（一六二二年）の創建以後、幾度となく屋根の葺替に併せて御殿の修復が行われ、その都度、最上の重儀であります遷座祭が斎行されてまいりました。

この度の遷座祭は、昭和四年（一九二九年）以来九十三年ぶりの遷座祭の斎行となり多くの方々にご参列並びに奉拝していただくべく考えておりましたが、残念ながらコロナ感染症の影響に鑑み関係者のみに縮小して斎行させていただきました。

しかし、約二年半に亘る造営を通じて多くの方々に御神縁を結んでいただけたことと思います。これを機会に御縁結びのお仕えに全力をあげて取り組んでまいる所存です。

令和の大造営の完遂を迎えましての御礼の御挨拶とさせていただきます。

御本殿創建四百年記念「令和の大造営」について

～御本殿創建四百年記念事業「令和の大造営」の完遂にあたって～

ご報告

◇お白石持行事

令和四年八月二十七日・二十八日の二日間、氏子・崇敬者の手によって、浄められた白石が、大神様がお鎮まりになる社殿の周囲に敷き詰められました。

修祓（お祓い）を受けた後、お白石を白布に包んで、まずは天石門別神社（奥宮）瑞垣内にお白石をお納めいただきました。

次に再びお白石を白布に包んで、新本殿裏の唐門より瑞垣内に入り、新本殿周りへお白石を納めていただきました。

その後、新しく造営された御社殿を見学していただきました。二日間を通じて、千六百人を超える多くの氏子・崇敬者の皆様にご参加いただきました。皆様にお納めいただいたお白石と共に、新社殿は次の時代へと引き継がれます。

◇天石門別神社四百年祭

茨木村・中条村の氏神さまである天石門別神社は、大同二年（八〇七）に現在の宮元町付近に鎮座して後、室町時代後期には現在の茨木神社本殿の場所にお遷りになりました。

そして元和八年（一六二二）に、素盞嗚尊を主祭神とする三柱の大神様を祀る本殿を新たに造営した際、天石門別神社は北へ三〇メートルの現在地へご遷座されました。今年はそれから四百年の佳節を迎えることから、御本殿四百年祭斎行の前、令和四年九月十一日午前十時より、天石門別神社四百年祭を神社関係団体代表ご参列のもと斎行いたしました。

◇正遷宮

令和四年九月二十日午後七時より、浄夜の中で正遷宮を斎行いたしました。

まず儀式殿前にて修祓が執り行われた後、仮殿へ参進、仮殿祭を斎行いたしました。宮司による祝詞奏上の後、大神様を輿にお遷し申し上げ、その後奉仕者による警蹕の声とともに遷御の列が新本殿へと進み、無事に新本殿へ入御されました。

儀式殿前での修祓

遷御の儀

大神様がお鎮まりになられた新本殿で、総代によって奉持された威儀物が納められた後、献饌そして宮司による祝詞奏上・玉串拝礼、そして記念事業委員長を代表にして参列者一同による玉串拝礼、その後撤饌・閉扉と続き、約一時間二十分の正遷宮が滞りなく斎行されました。

◇奉祝祭・奉告祭

新本殿への御遷座を大神様に御祝い申し上げる奉祝祭を、当社例祭日である十月十日に斎行いたしました。

午前十時より修祓が執り行われ、その後献饌・宮司による祝詞奏上、神楽「豊栄舞」奉奏、そして宮司・記念事業委員長をはじめとする関係者の玉串拝礼と続きました。神事の後には、茨木神社雅楽会による舞楽「賀殿」が奉納されました。

神楽「豊栄舞」

舞楽「賀殿」

また神事の前後には、琴演奏の奉納や茨木神社石門会による太鼓奉仕も行われ、記念事業の完遂を大神様にお祝い申し上げました。

午後二時からは、今回のご造営に対して多くの方々にご奉賛の誠を捧げていただいたことを大神様にご奉告する「奉告祭」を斎行いたしました。

琴演奏の奉納

茨木神社石門会による太鼓奉仕

拝殿両側の切り絵について

拝殿両側の壁には、切絵作家比企善彦先生の制作によります「長寿の象徴」・「夫婦・家庭円満の象徴」と言われる鶴を描いた作品を奉納いただきました。正面向かって右側は、「東門と鶴」、左側は「本殿と鶴」となっています。今回比企先生に制作いただいたこの鶴は、今回のご造営を象徴する印として、神社で使用する紙袋や印刷物、また造営記念品にも用いております。

関係境内工事

・境内照明灯の設置

昭和四十年代に設置され、長期間にわたり境内照明として役割を果たしてきた水銀灯も、経年劣化が甚だしくなっておりました。それに加え水銀灯の製造が中止されたことにより、この度の造営に併せて全ての水銀灯をＬＥＤによる和風の境内照明灯に改めました。またそれに伴い、境内照明灯へ電気を供給していた架線の電線も埋設化し、景観の整備を行いました。

ＬＥＤの境内照明灯

ご奉賛への御礼

令和元年十月より、氏子・崇敬者の皆様に御本殿創建四百年記念事業「令和の大造営」へのご奉賛をお願い申し上げたところ、数多くの方々から御篤志を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

「令和の大造営」に関わる今後の予定

◇手水舎の造営

参拝者の皆さまに、参拝前にお清めの水を受けていただく、手水舎の建設を現在進めております。

この手水舎では、龍頭や水を受けるための石は、旧手水舎で使用していたものを受け継ぎます。一方、建物は新築いたします。

手水舎建設工事の様子

◇石玉垣の設置

ご奉賛の誠を末永く顕彰するための石玉垣の設置を、一月中旬より開始いたします。

石柱に刻銘出来次第、順次設置する予定でしたが、全ての石柱に刻銘できた後、一斉に設置することとしたため設置が遅れていることをお詫びいたします。

茨木神社奉賛会入会のご案内

当奉賛会は、氏神様に崇敬の誠を捧げて御神縁を一層深め、神社を護持し、これを子孫へ伝えていくことを目的として結成されております。

神社では、四月に奉賛会員各位のための家内安全厄除開運祈願祭、また会員の誕生月には誕生祭を斎行しております。

また、会員には夏の大祓神事など、神社の諸祭典並びに行事をご案内させていただくと共に、年二回社報「うぶすな」を送付させていただき、神社の様子をお伝えしております。さらに年末には、新年の御神札の授与、暦・絵馬などを贈呈させていただいております。

会費は年間三千円納付していただいております。

例年四月の総会にて決算報告を行い余剰金は積み立て、この度のような造営等の折に協賛しております。

新型コロナウイルスの当社の対応（ご報告）

●「大祓・輪くぐり神事」並びに「人形（ひとがた）祓神事」

例年六月三十日午後二時から多くの氏子・崇敬者のご参列のもと斎行しております「大祓・輪くぐり神事」並びに「人形祓神事」は、今年も密を避けるため、昨年同様午前九時三十分より総代のみ参列のもと斎行いたしました。「人形祓神事」とは、人の形をした紙に記名、息を吹きかけて半年の厄を祓い、残り半年の無事を祈る神事です。

神事終了後、「茅の輪」を終日設置いたしました。多くの方々が時間を分散し、密を避けながら「茅の輪」をくぐり、これまでのご守護を感謝し、残り半年の更なる幸せを祈られました。

宮司によるくぐり初め

●令和四年夏祭の様子

例年七月十三日・十四日に斎行しております夏祭については、今年は大神様の御分霊をお遷し申し上げた神輿をトラックに奉安して、氏子地域を巡幸する形式で斎行いたしました。そして神輿には世話方奉仕による太鼓が先導供奉しました。また新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、小学生・中学生による神輿・太鼓の渡御は中止となりました。

七月十四日午前九時より、総代・祭礼委員長並びに関係者のご参列のもと仮本殿にて神事を斎行した後、神輿・太鼓の渡御が行われ、氏子地域を巡幸し、四ヵ所ある御旅所において神事を斎行いたしました。

宮入り時は、太鼓の音色が響く中、氏子の肩に担がれ境内を七たび半往復した後、仮殿にお戻りになりました。雨が心配されましたが、小雨程度で済み、石門会（夏祭保存会）をはじめとする氏子の皆様のご奉仕によりまして無事斎行することが出来ました。

宮入りの様子

太鼓供奉の様子

抜穂祭

毎年神社の境内では、伊勢の神宮でのみ栽培され、「イセヒカリ」と名付けられた稲を、少しですがお頒かちいただき苗から育てています。今年も夏の暑さと度重なる風雨にも耐え順調に生育して、実りの秋を迎えました。神様の御恵み・お蔭でできた米なので「御蔭米」と名付けて、恒例の抜穂祭を十月二十六日に斎行いたしました。

秋の花手水

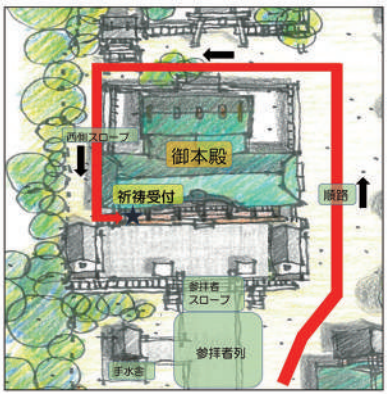
氏子のご奉仕によりまして、十月十日の奉祝祭・奉告祭に合わせて花手水をご奉納いただきました。神事に参列された方々やご参拝者に、爽やかな秋の季節を感じていただくことが出来たことと思います。

秋の花手水

今後の神事について

◇初詣

厄除などの諸祈祷にお越しの方や「令和の大造営特別参拝券」をお持ちの皆様は、正面参道のご参拝列にお並びになることなく、左図の通り、直接本殿裏より西側スロープを上がり、本殿西側の祈祷受付にお越し下さい。



◇十日戎

今年も例年通り一月九日～十一日の三日間斎行されます。皆様どうぞご参拝下さい。

これからの行事予定

◆越年祭
十二月三十一日

◆歳旦祭
一月一日午前十時斎行

◆十日戎祭
一月九日～十一日

◆御火焚（とんど）祈祷木奉焼祭
一月十五日

◆節分祭 鎮魂星祭
二月三日

◆初午祭
二月五日

◆紀元祭
二月十一日

◆人形奉焼祭
四月八日

◆春祭（祈年祭）奉賛会厄除安全祈願祭
四月十八日

◆大祓・茅の輪くぐり神事
六月三十日

初詣は、混雑を避け、分散してご参拝下さい。その際、マスクの着用と控えめな会話をお願い申し上げます。